



	到達時間の短縮や作業コストの縮減など森林整備経費の縮減が図られた。
事業により整備された施設の管理状況	<p>本事業で整備された森林は、一部にニホンジカによる食害が発生したが、幼齢林については防護柵等を設置するなど、継続して適切に管理されており、良好な管理状況にある。</p> <p>また、路網についても草刈りや路面の整備等が実施され、維持管理状況は良好である。</p>
事業実施による環境の変化	<p>森林整備の実施により、重視すべき機能（水源涵養<sup>かん</sup>等）の区分に応じた良好な森林が形成されつつある。</p> <p>また、路網整備により森林整備等の施業地までの到達時間の短縮、作業コストの縮減等が図られるようになり、間伐による木材供給も増加している。</p>
社会経済情勢の変化	<p>当地域の林業従事者数は平成18年度からほとんど変化はないが、50歳未満の割合が増加し若返りが図られるとともに、就労日数も年間210日以上の人が増加している。また、長野県においては「長野県森林づくりアクションプラン」を制定し、林業の担い手の確保・育成に係る施策など目標を掲げ取組がされている。</p> <p>こうした状況の中で、間伐等の森林整備を推進することによって、地球温暖化防止や木材の安定的な供給、山地災害防止及び水源涵養機能等森林の持つ公益的機能の高度発揮の他、国有林野の活用など、国民共有の財産である国有林への期待も大きくなっている。</p>
今後の課題等  地元の意見：	<p>公益的機能を長期にわたって発揮させるため、周辺環境に配慮しつつ、計画に基づき着実に事業を実施する必要がある。</p> <p>また、今後の事業においてもコスト縮減の努力を行うことが必要である。</p> <p><b>（長野県）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果分析結果から、事業の必要性は高いと思われる。</li> <li>・流域の森林整備を促進するためには、引き続き民有林と隣接する国有林が効果的・効率的に連携しながら一体的に路網整備や間伐等の森林整備を実施することが望まれる。</li> <li>・森林整備の円滑な実行や木材生産の拡大を図り、林業事業者等の計画的な実行体制構築を進めるため、民有林と国有林が一層連携して取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>本事業の実施により、水源涵養<sup>かん</sup>や山地保全などの森林の持つ公益的機能の維持増進が図られ事業の効果が発揮されていると認められる。</p>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性： 水源の涵養<sup>かん</sup>、国土の保全及び地球温暖化防止等の公益的機能の発揮に寄与するとともに、木材の安定供給に関する地域の要請に応えるための事業であったことから、事業の必要性は認められる。</li> <li>・効率性： 路網の開設・改良及び森林整備ともに現地の状況に応じた工種の選択、作業仕様で検討されており、事業実施に当たってもコスト縮減に努めていたことから、事業の効率性は認められる。</li> <li>・有効性： 地域の特性を踏まえた計画的な路網と森林整備の実施により、森林整備実施箇所へのアクセスの向上、コスト縮減が図られるとともに、森林の有する機能が十分に発揮され、引き続きその効果が発現されるものと見込まれることから、事業の有効性は認められる。</li> </ul>

様式1

## 便 益 集 計 表

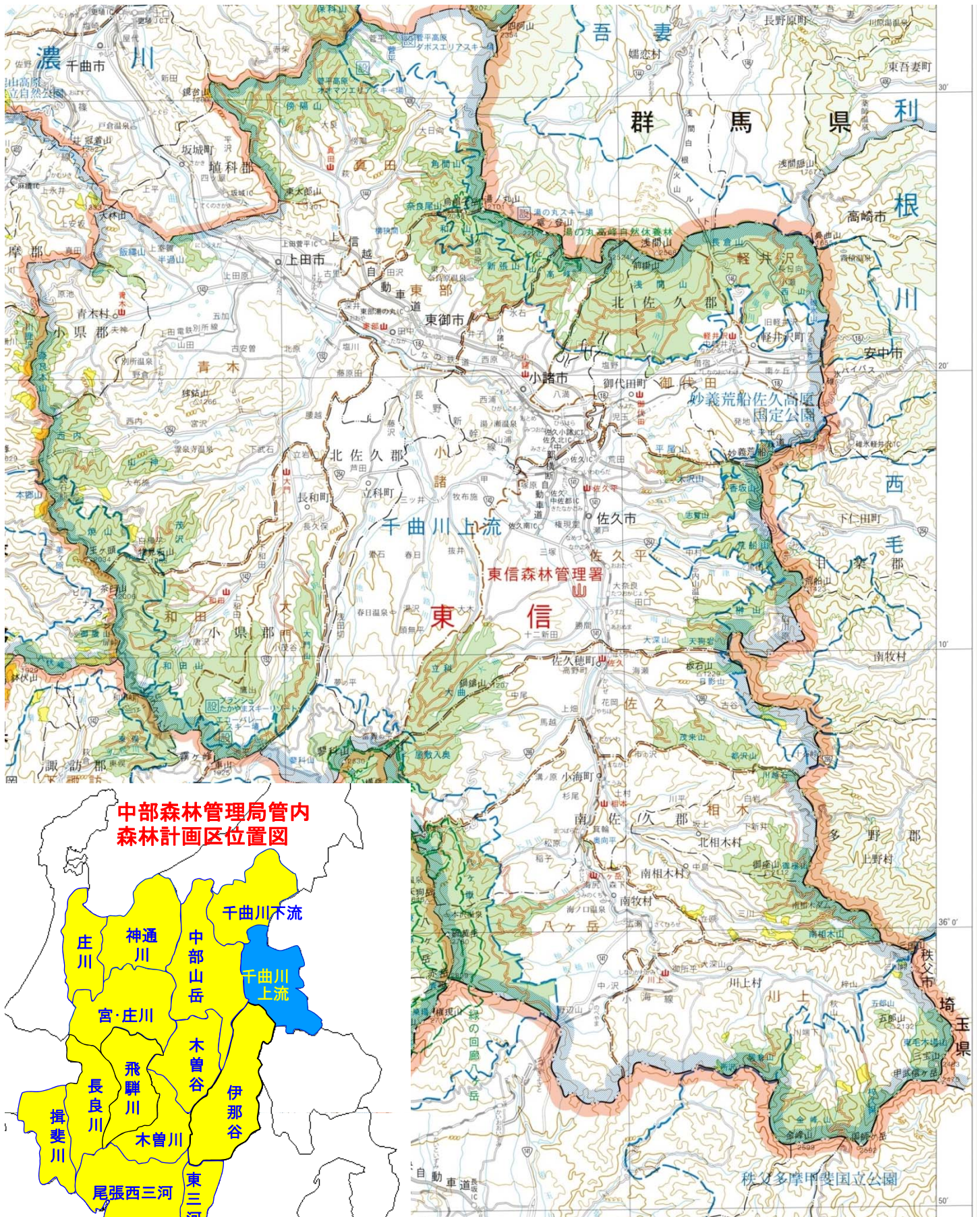
( 森林整備事業 )

事業名：森林環境保全整備事業  
 施行箇所：千曲川上流森林計画区

都道府県名：長野  
 (単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養 <sup>かん</sup> 便益	洪水防止便益	5,685,728	
	流域貯水便益	580,635	
	水質浄化便益	1,761,455	
山地保全便益	土砂流出防止便益	3,893,684	
環境保全便益	炭素固定便益	1,027,738	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	248,086	
	木材生産確保・増進便益	1,485,822	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	79,778	
総 便 益 (B)		14,762,926	
総 費 用 (C)		2,725,733	千円
費用便益比	$B \div C = \frac{14,762,926}{2,725,733}$		= 5.42

# 森林環境保全整備事業 千曲川上流計画 (長野県) 事業概要図



中部森林管理局管内  
森林計画区位置図

